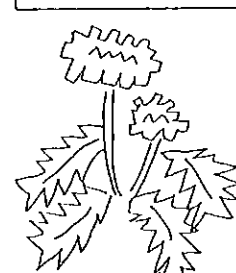


たんほほ

NO90
 H6年12月1日
 一発行
 〒869-12
 熊本県菊池郡
 大津町森54-2
 社会福祉法人
 三気の会
 三気の里
 ☎096-293-8100



たった一つの『ことば』

理事長 田中 稔

息子は、今も毎週土曜日の午後嬉しそうな顔をして玄関を駆け上がって来る。以前の様な荒々しさはこのところすっかり影をひそめ思春期にあった、自分の頭をたたく様なパニックも全くなくなりまたした。

いつの頃からか子供との距離がなくなつて、おかしい表現の様ですが身近な私の息子だなという実感が強まっているのです。

よく、自閉症児は親子でもまるで宇宙人の様に思えると思いでいる人もいますが...

私が、どうしてこの様に身近に感じられる様になったのか。幼児期から視線はしっかり会う子でしたが、その程度しか思い出させる良い点はありません。色々考える中で、思い出す事がいくつか出てきました。暇があればピアノをた

たいて過ごしていたのが、新聞や雑誌、広告のチラシに興味を持つ時間が増えました。自分に分かる文字や記号がかなりあるみたいですが、私にはそれがどれだけの分かるりません。

掃宅してくると一週間分の新聞とチラシを一枚一枚めぐりながら丁寧に眺めているのです。時々チラシの文字や記号を持って来て、欲しいものや行きたい所を私達へ伝えます。

こちらの言う事もかなり分かる様です。『明日、山登りにでも行く』かと話しているとジーンと聞いていて、しばらくすると水筒を玄関に並べたりしているのに苦笑させられるのも度々です。又、いくつかのサイン言語がありますと言葉は殆どしゃべりません。

しかし、たった一つの言葉として『ダッ、ダッ』という声を自分の意志や希望を伝える時にだしま

す。これがたった一つの子供の『ことば』なのです。

子供が『ことば』を話せる様になつて欲しいというのは自閉症児を持つた多くの親御さんの願いです。『ダッ、ダッ』という声と指さしがこの子のコミュニケーション能力なのです。たったこれだけの能力でも、人として身近かに感じられるものになりうるものだという事を実感としてこの頃分かるのです。

私達はコミュニケーション能力を、その子のレベルにあわせて高めるといふ療育目標を持っています。

人が人間らしく、人の中で生活し共生していく為にはわずかなコミュニケーションでも出来る様に思っています。



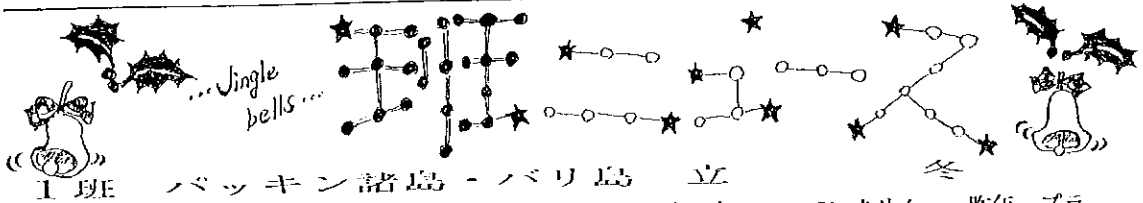
気 - 気 - 気

▽立冬も過ぎ、あちらこちらで冬の便りを聞くようになった。三気の里の周辺の野山も、冬の装いへと変わりつつあるようだ。山の端は冬霞みで、墨絵のような風情だ。

▽暖房のかかせぬ最近では、着衣も次第に厚く、風呂上がりには、ちゃんちゃんこが欠かせない。最近のちゃんちゃんこは、ファッションナブルなものが多く、とても華やかだ。

▽立冬とはいえ日中は、まだまだ暖かく、日向ぼっこには最適のようだ。また、面白い発見もある。切り株の残された、田圃はさながら広いグラウンドのようだし、野山には、秋から冬にかけて、実をつける木苺がある。飽食の時代では、気にとめる人も少ないようだが、口に含むと、淡泊な味が広がる。散歩の役得といったところか。

▽今月10日、三気の里・三気の家合同の餅つき大会が行われます。8年目の今年、新たな友が加わり、楽しい餅つきになりそうです。皆さんも覗いてみませんか。美味しいお餅が頂けますよ。



I 班 パッキン諸島 - バリ島 立

最近、パッキンチームという名前から想像できるような作業に在りついていません。一昨年、プラスチック部品のパッキンセット作業の受注を頂いて一躍作業の中心となったのですが世の中の不況が、三気の里にも大きく影を投げかけているようです。

私達は今、以前の中心作業であった廊下掃除や、知作業に中心を移しています。逆戻りに職員（特に私ですが）の気持ちにはかなりの抵抗がありました。ところが、気持ちだけでなく、自分たちの体力も低下していることに気が付きました。机に座って行う作業で、いつの間にか、体にまで贅肉が付いていたようです。

現在、一班らしく建物（三気の里）を磨き、守り、自然に親しみ、恵みを探し、育て、ちょっぴり収入を得、体はスリムにをモットーに、毎日を過ごそうと初心に戻っていますが、さて、冬も野山には、恵みが一杯です。野山で、我らを見かけたら、声をかけてください。

景気という波は、簡単には戻らないようです。お寒い状態ですが、私達は毎日、汗一杯かいて大声を上げ、熱く頑張っています。来年は、チーム名をもっと、似合った名前にと考慮中です。 坂井

I 班 ネットタウン I 班 木栗

今年の冬は暑かった夏に引き続き暖冬だそうです。もうすぐ12月だというのに日中は20℃を越え、ネットの作業棟は皆のやる気と合わせ熱気にあふれています。このネットタウンに11月から新しいメンバーが加わりました。名前は良夫君、一度目の前でして見せると後は一人で上手にしまい強力な助っ人となりました。13名となったネット作業の中で、折り、セット、袋詰めと段取り良く園生が行っていった後、最後の袋の封をするところで唯一職員が携わっています。この封をする時にネットが歪んでないか輪ゴムが斜めになってないか等とチェックをしながらする為一番手間がかかっています。流れとしては順調にきているので今後は、個々のレベルで丁寧なことを心掛け、最後の手間をはぶき封をする園生を育てて行こうと思っています。

R,S ネットタウンでは端切れを集めています。御家庭で余っている物があればお譲りください。えっ、何に使うのかって？それはできてからのお・た・の・し・み。 田邊

2 班 足早い忘年会

昨年、与論島一週間旅行を成し遂げた2班。今年は何が起こるかワクワクしながら11月4・5日の一泊二日で山布院へ行って来ました。

今回の旅行日程は、城島後楽園遊園地と山布院散策。けれど、みんなが一番楽しみにしていたのは旅館での夕食と温泉でしょう。昼間の城島での遊び疲れも何のその、夕食の地鶏鍋と会席料理を食べました。あまりの美味しさに小食の昭子さんも次山食べて大満足。

地鶏鍋を食べ終わる頃には、久美加ちゃんがカラオケで歌い出して、自然と宴会に…。修ちゃん、剛くんが歌えば、他の人が踊りだし、照れ屋の希久ちゃんも歌い、一足早い2班の忘年会となりました。職員は座ったままで、各々が自分で選曲し、カラオケの機械を操作して、みんなが自分たちから楽しみ始めたことを嬉しく思いました。宴会の後は玉砂利の露天ぶろに入って、のんびり過ごしました。外出先でのんびり出来て、楽しめるなんて最高ですよ。今年、一泊二日だったから、もう一回、一泊二日でどこかへいったら？という声も聞こえてきますが…。今度の旅行を楽しみに待つことにしましょう。 今村

3班 園芸班 長い冬だ、頑張るぞ!

今年もいよいよ残りわずかとなってしまいました。園芸班は早々と春に向けての活動開始。パンジーや金盞花、月見草などなどの種蒔きや、花壇の整備。

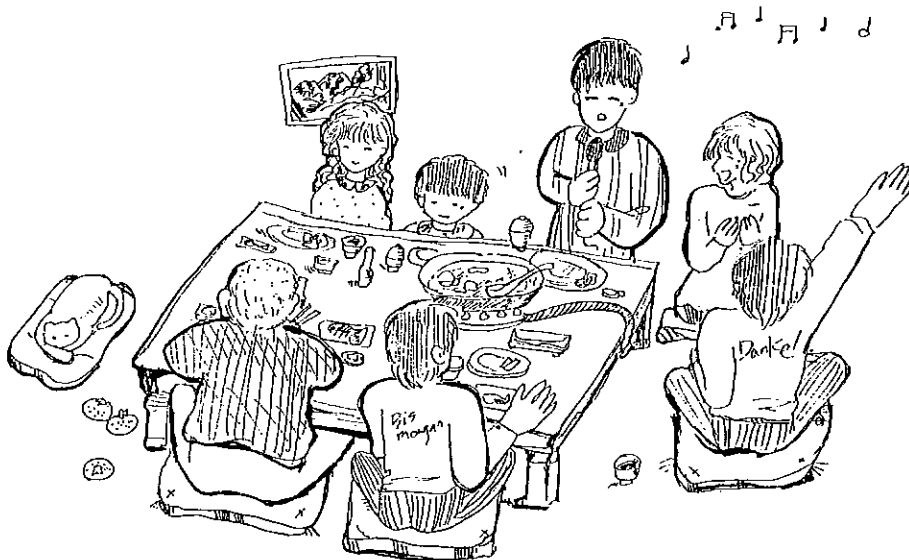
今年に入り種蒔きは2回目ということもあり、みんなのペースは早く、そして上手になっていました。それを予想していなかった職員はてんやわんや。1つの苗箱に土を奮うのに手間取ってしまい職員のところまで渋滞です。まだかなまだかなと待つ典浩君に、「ちょっと待ってね、もう少しだから。」と言いつつながらもなかなか進まず園生は休憩。といった感じでようやく終わることができました。次は花壇造りです。運草を蒔いてコンクリート柱を周りに立てています。柱を一輪車に乗せる人、運ぶ人、並べる人。みんなの連携プレーは抜群!職員の出る幕はないようです…。
来年の春には花が満開になる予定ですのでご期待下さい。 行働

3班 - 農耕 冬の訪れ

鮮やかだった紅葉も次第に落ち葉へと姿を変え、やがて阿蘇からの凍るような吹きおろしの風が段々と強くなって、三気の里に8度目の冬を連れて来ようとしています。

今年4月、30名の定員増しをして農耕班にもこれまでに6名の新入園生が加わりました。それぞれに個性派揃いなのは言うまでもないのですが、そんな中でも色々な変化を見せてくれました。力仕事も得意だけど、友達の手を引いて誘導してくれる優しさをも合わせ持った高志くん、きれいだ好きで細かい仕事も任せての行夫さん、おしゃべり好きだけど訓練を頑張って落ち着きの出てきた賀文くん、一番新米で最初はみんなとうまくやって行けるか心配だったけど、やっと慣れて笑顔もたくさん見せてくれるようになった雅晴くん、この8カ月で基礎体力もついて廊下のゴミ拭きもグリーンと距離の延びた聡くん、ちょっと甘えん坊だけど芯はしっかりしている功一くん。この6名のダイヤモンドの原石くん達と、これまで磨き続けて輝きの増している7名を加えて、毎日畑に出てキャベツ、白菜、大根、二十日大根の手入れに精を出しています。

“今日も一日お疲れ様でした。”今夜はどんな夢をみるのだろうか?布団を剥いて眠っている人はいないだろうか。みんなの寝顔を確かめながら一回りするとしんしんとした冷たさが身に染みます。読んでいた本から視線を上げ、耳を澄ますと気の早いサンタの足音がどこからか聞こえて…。そんなことを考えながら夜勤の夜は過ぎていきます。 木下



療育シリーズ

聴覚障害に接して

園長 土井 尚典

自閉症児が小さいころ、耳が聞こえないのではないかと間違われることがある。話しかけても、近くで大きな音がしても、あたかも聞こえていないかのように振る舞うからであろう。私たちが目をつぶって耳をすましてみると、人の声・鳥の鳴き声・自動車の音などいろんな音が聞こえてくる。上から、下から、前から、後ろから、左右から、そして寝ている間も、一日中聞こえている。人間の五感の中で耳は情報の最大の収集源である。目で見たもの、触ったものなどとそのものの名前が符号するのは耳である。耳が聞こえないと、ものの名前を覚えるには、視覚や触覚を使わなくてはならない。言葉には内言語といって、喋れなくても理解できる言葉が成長しなければならぬ。身の回りの色々な物に名前が付いていることを知ることである。耳の聞こえない人はひとたび言葉を習得すると目覚ましい発達をする。ところが「12才の壁」というものがあるらしい。知

的に問題がないにもかかわらず、学力が12才の水準を越えにくいケースがあるようだ。原因は言語が制約されているため抽象的思考が困難をきたすらしい。

失語症の中に運動失語というものがある。言語理解は比較的保たれているが、言語表出の障害を呈する。感覚失語は表出言語は比較的保たれているが言語理解が障害を呈する。自閉症に似たところがある。私は自閉症が聴覚障害か失語症かどうかは興味が無い。どういふ訓練や指導をしているかである。最初の一つの言語を理解し、最初の一つの言葉を発するメカニズムを知りたいのである。ヘレンケラーに言葉を教えたプロセスそのものだよとある本が教えてくれた。

子供が「伝えたい」と強く強く思うと声が出てくる。コミュニケーションしたいと思うと、頭の中でコミュニケーションする道具を探し、コミュニケーションして行く。その道具の一つが言葉である。コミュニケーションしたいと頭の中で思うのは「言葉を使って思う」のだろうか。

分かっていることは、コミュニ

ケーションできないことである。できる人ができない人にコミュニケーションをして行くしかない。あらゆる方法を使ってコミュニケーションして行くことである。そして、コミュニケーションを知ってもらうことである。そして、私たちの世界に連れてくることである。

友人が小学生のボランテアに障害ってなあに？と質問したら、その小学生は「私は空を飛べない、でも飛行機に乗ると空を飛べる。私にできないことはだれかができる。できる人ができない人をできるように助ければ良い。そんなのが障害」と教えてくれたんだよと話してくれた。聴覚障害児をもつ親は子供に言葉を習得させるために、24時間、毎日毎日必死で教えると聞いている。学校の先生の仕事は親の訓練だとも聞いている。



輝きさ十八公

田邊剛政

この大会は、知的障害者がスポーツを通して心身の発達と健康の維持増進を図り、自立への意欲を高揚するとともに社会参加への希望と勇気を与えることを主旨とした大会である。

11月20日(日)好天に恵まれ、県下の施設入所者や在宅者など4千人余りが参加して行われた。当日は起床時間を30分繰り上げトレナーに着替え慌ただしく出発。開会式では、ぬいぐるみ人形が出て来たり、ヘリコプターが飛んだり今まででない盛り上がりを見せ三気の里の園生も注目することができ静かに並んでいることができた。競技は午前中に6競技(15府走他)に全員が出場し、歩く人、コースを外れてトイレに駆け込む人等様々でしたが皆個性を発揮してメダルを獲得しました。午後の部には毎週金曜日の午後にはスポーツで汗を流しているメンバーが6競技(パン食い競争他)に参加し各々が頑張りました。遅くまで手伝ってくれたボランテアさんのお陰で楽しい1日が送れたことに感謝します。有り難うございました。

九州・山口

自閉症者施設連絡協議会研究会

今村 由紀

11月10日・11日に鹿児島で行われた九州・山口自閉症者施設連絡協議会に園長・田邊・有働・前田・今村の5名が参加しました。この協議会は、施設職員の資質の向上と施設間の交流を深める為に毎年行われています。今年の会場は塚脇学園と噴煙を上げる桜島が目の前に見えるビューホテル桜島でした。

各施設が与えられた処遇課題（家庭への帰省・医療との連携・食生活の改善・器物損壊について発表が行われました。三気の里の課題は「スポーツや文化等の技能を生かす処遇」で、有働がビデオを混じえ今年度から始めた金曜日の午後の活動、スポーツ・音楽・学習（主に動作法）の目的や活動内容目標を発表しました。

他の施設では、各々の方針で上手く指導をさえている様でした。この研修で全職員が意思統一をして指導をしていくことの大切さを改めて痛感しました。

最後になりましたがこの協議会の準備をされた塚脇学園の皆様お世話になりました。

垣根社の集い

吉田真紀

11月3日文化の日、澄み渡った秋空の下、菊池郡・市福祉の集いが開催されました。会場では各施設の出し物のテントが軒を並べており、三気の里からは2班の木工品、3班（農耕班・園芸班）のみんなが心をこめてつくったマスコット、さつまいもチップス、つばきの苗、杜仲茶を出品しました。売れゆきは上々で一同ホクホク顔でした。遊びに来てくれた3班（農耕・園芸班）のみんなもお店を見て回ったりだご汁やわた菓子を食べたり、中には一枚百円（！）のスポンを購入した買い物上手な人もいて、それぞれに楽しめた様です。



第14回

熊本県精神薄弱者施設

作口 屈展 二小 即 志元 公云

指導員 坂井省英

今年の作品展示会は、11月11・12・13日の3日間、「ふれあい・心・パザール」をテーマに天草松島、ニコニコドーマリン近くの広場で開催されました。開期中は、晴天にも恵まれ、松島町の方をは

じめ、8千人ものお客様が来場されました。

会場では、70余りの施設団体が参加し、施設紹介、真心のこもった作品・作物の展示即売、天草の特産物の販売、アトラクションでは、牛深ハイヤや天草水軍太鼓の披露など見所沢山の展示会となりました。

熊本市を離れて開催されたため、企画・準備に多くの時間を費やし、実施にたどりついたときは、ただただホッとした心境と言ったところでした。

天草は、少々遠かったこともあり、三気の里の入所者が、参加できなかったのは、残念に思いました。

食当生学日業中

秋も終わりを告げ、冬が駆け足でやって来ようとしています。そんな中、輝き大会がありました。

紅葉している木々を眺めながらのお弁当が、とてもおいしかったです。おいなりに、巻き寿司、てんぷらとバラエティー豊かで、みんなも満足そうでした。お弁当でパワーが出たのか、午後の競技もはりきっていたようです。

何はともあれ、お弁当も満足、競技も満点で、百点満点でしたね。

村上

栄養の話

スポーツドリンク（アイソトニック飲料）というとジュースより甘くなく、体に良さそうなので、あるとつい飲んでしまいがちですが、大量だと塩分や糖分の過剰摂取にもなります。では、どこがよいのでしょうか。アイソトニック飲料はカリウムなどの水に溶けてイオン化する成分が、人間の体液と同濃度に含まれており、吸収が早いのです。

ですから、本当に役立つのは激しい運動、下痢をして脱水症状をおこしそうな時。また、二日酔いの朝飲んで排泄を促せば、アルコール分解の手助けとなります。一般の人は、このような時に頼れば良いでしょう。

前田

後援協会入会云

ありがとうございます

平野順子 上田清秀 一門恵子
長友益実 森木美樹

平成六年十一月二十五日付け

※敬称略

1 2 月 の 行 事 予 定

日	月	火	水	木	金	土	備考
1				1	2	3	
					赤ちゃんの誕生日(28)		
					おんくの誕生日(27)		
4	5	6	7	8	9	10	
						赤ちゃんの誕生日(29)	
11	12	13	14	15	16	17	
	赤ちゃんの誕生日(23)			誕生会	たんぼぼ編織日	高志くんの誕生日(18)	
18	19	20	21	22	23	24	
		赤ちゃんの誕生日(27)		クリスマス会			
25	26	27	28	29	30	31	
	福山研修		冬休編織 5日まで	赤ちゃんの誕生日(28)			



からいも

フェスタ

去る11月13日(日) 大津町のHSR九州(本田技研工業・熊本製作所内)でからいもフェスティバル in 大津が行われました。

三気の里からも二班の木工製品、三班園芸グループのツバキ苗の二種類を展示し販売しました。みんなが作った製品を売ることも目的の一つですが施設と班の紹介をしたパネルを同時に展示し一人でも多くの人に三気の里を知って貰うということも目的でした。みんなが作ったキーホルダーはお蔭様でたくさん売れました。これからみんなので心のこもった製品を作って行きたいと思えます。

新入所者紹介
良夫くん
11月29日に19歳になったばかりの良夫くんです。1班のネット作業で、ネット折りを器用に頑張っています。音楽を聴くのが大好きで、演歌からクラシックまで何でもこい、という良夫くんをどうぞよろしくお願ひします。



ポラソントイア通信

北風が木の葉を運び、寒さが身にしみる季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか?早いもので今年も残りわずかとなってしまい、月日の経つ早さを実感しませぬ。

去る、11月20日に行われた輝き大会では、朝早くから大勢のポラソニアさんに協力して頂き、無事終える事ができました。有り難うございました。

有働 (ポラソントイアありがとう)

- ☆いけ花 西村栄子
- ☆ブラッシング指導 森 隆子
- ☆散髪 坂本シマコ 源造マスマ
- ☆清掃 遠山一恵
- ☆ポラソントイア学習会
- 森 隆子 小野リカ
- ☆輝き大会
- 森 隆子 小野リカ 日置亜希子
- 八木長江 西永 香 三池美智子
- 市原利恵 中野誠也 岡部まどか
- 里 祐子 平井恵美 石丸弘二
- 山口裕之 村上 綾 宮崎亜香根
- 柴田裕美 北 広美 尾方陽子
- 池田淳子 宗心美樹 坂中恵美
- ☆作業ポラソントイア
- 麻生由紀 佐藤香織 峰久美代

敬称略